

## VICENZAORO Report

堀内 信之 氏  
JGS 副理事長・広報部長／  
Ambrose & Company 株式会社 代表取締役

2023 年 1 月 20 日から 24 日までイタリア・ヴィッセンツァで開催された VICENZAORO (VO) と T.GOLD の両ショーに行きまして。

目的はチェーンの仕入れ、当社が開発したキャストブルレジンの営業、そして HRD DESIGN AWARD 授賞式への参加です。

年末のインド出張時同様、ヨーロッパでのパンデミック対応は終了しており、ごく普通の日常に戻っていました。もちろん街中でもマスク姿の方々は散見されました。

ショーは大変活気に満ち溢れており、出展者も来場者も皆笑顔でお互いの再会を心から楽しむことができました。私の知合いや友人の出展社にとってビジネスは思うような結果ではなかったようですが、「新規の取引先が得られた。」とか「有名企業が買い付けて行った。」など前向きな感想を笑顔で語ってくれました。

会期中三つの点が私の目に映りました。一つ目はアラブ人バイヤーとモスLEM系バイヤーが活発だったことと、二つ目は空枠メーカーがフルブッキングだった事です。三つ目は業界のハイテク化と ESG 化（サステナブル化）です。

業界人の集まる VO 会場内だけでなく、トランジットのため立ち寄ったロンドンやヴェニスでも、予想外のアラブ人、モスLEMの観光客の多さに少々驚くとともに、新興市場を感じ取り

ました。人口世界一になったインド、そしてヒन्दウー教徒を超える（超えそう？）モスLEM（イスラム教徒）の力を感じずにはいられませんでした。

二点目の空枠メーカーの忙しさは“流石イタリア！”を感じ、英語での会話もままならないシニアオーナーさん達も元気取引に参加している姿は懐かしく、嬉しく、元気を頂けたと思います。



三つ目のハイテク化の速度を体感できた事は今回の出張の一番の収穫でした。出張目的の一つである当社開発のキャストブルレジンの営業を通して半数を超えるジュエリーメーカーがダイレクキャスト導入済みでした。そして T.GOLD で目にした LCD/DLP 型 3D プリンターの新機種（写真 1～3）と次世代向け貴金属ダイレクト 3D プリンターの開発には驚きました（写真 4～7）。初期投資額が莫大なので未だ現実的ではないのですが、プリンターメーカーのプロモーションは力が入っていました。例えばプラチナを使った貴金属 3D プリンターで作るジュエリーのデザインコンテストなどです。

[https://www.progold.com/Pages/PressArticle.aspx?FN=2023-02-09\\_P3DContestWinner\\_GB.html](https://www.progold.com/Pages/PressArticle.aspx?FN=2023-02-09_P3DContestWinner_GB.html)



費用面のみならず実用化はまだ先であることは間違い無いのですが、この技術の進化は視野に入れておかないと日本のジュエリー製造は後塵を拝すると思います。

美しいジュエリーは歴史と教訓をいつの時代でも変化無く、熱く伝える存在である事を体感できるヨーロッパ。一度は凋落したヴィセンツァでしたが、今やブランド化した展示会となり、華やかな気持ちはVOならでは。更に最先端を探し求める姿はジュエリーのデザインはもちろん、最先端テクノロジーだけではなく、ESGをはじめとする企業の姿勢の推進に表れていると思います。

SDG 's などがパブリシティーツールとして一人歩きしそうな昨今。業界で働く人々に正しい認識を浸透させることが重要になり、ヨーロッパでは CIBJO を中心に正しい業界用語の使い方や宝石のオリジンの認識・扱い方などを広げはじめています。

<https://www.cibjo.org/world-jewellery-confederation-to-launch-cibjo-academy/>

世界最大ジュエリー市場のアメリカでは AGTA にサステナビリティやエシックスに関する表現の基準を制定する新たな委員会が設置されました。

<https://agta.org/new-agta-committee-to-standardize-industry-terms-surrounding-sustainability-ethics/>

JGS 会員である諏訪恭一会長が発起人の一人でいらっしゃった、業界流通川上に存在する有力中小企業の業界団体、ICA では参加企業が自ら取引のあり方を問い直す事を推奨し、公正な取引習慣を広める活動をしています。

<https://www.gemstone.org/ethical-accreditation-aem>

この様なソフトの面、アカデミックな面が企業評価の一部になり、今まで以上に避けられない時代です。DX 以上に成果が分かり難いだけに取り組み難い事ではあるのですが、ここにも後塵を拝さないでいるヒントがありそうだと肌で感じました。

ウクライナ戦争の為、ヨーロッパへの渡航はアラスカ上空を飛ぶ東周りなので 14 時間のフライトは長いものの、アラスカ上空からグリーンランド上空にはオーロラが現れ、記憶に残るフライトでした。



グリーンランド上空オーロラ

会場付近にはホテルなどが整っておらず、隣町のパドヴァまでバスか電車で通う不便さはあるもの、ロマンチックな街並みを歩きながら通う展示会は非日常で、楽しみの一つです。また行きたい展示会です。

